

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成21年度第1回スポーツ振興審議会
開催日時	平成22年2月9日(火) 14時30分～16時35分
開催場所	高松市役所 11階 職員研修室
議 題	「高松市スポーツ振興基本計画(案)」について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	城門委員, 小島委員, 多田委員, 田中委員, 野崎委員, 長谷川委員, 林委員, 松本委員, 山下委員(欠席1名)
傍 聴 者	0 人 (定員 10 人)
担当課および 連絡先	スポーツ振興課 839-2626

会議経過および会議結果

次のとおり会議を開会し、議題について協議した。

- 1 開会
午後2時30分
- 2 市長あいさつ
- 3 諮問
大西市長より野崎会長へ「高松市スポーツ振興基本計画(案)」について諮問。(市長退席)
- 4 会議の成立
事務局から、委員10名のうち出席9名にて、設置要綱により会議が成立していることを報告。
- 5 会議の公開について
野崎会長から、本日の会議では、非公開となるような事項の審議は想定されないことから、会議を公開することを諮り、異議なく了承された。
- 6 議題
事務局より、「高松市スポーツ振興基本計画(案)」について説明。

○質疑

(会長)

数値目標は必ず盛り込まなければならないのか。

(事務局)

今の市役所作成の計画には、目に見える指針として、数値目標が入るのが流れである。今回のそれぞれの数値目標は、基本方針に沿ったものをピックアップして設定している。

(委員)

スポーツ人口を増加させるためには、地域スポーツを盛んにするのが一番の近道である。

高松市には、地区体育協会があるので、歩いてできる範囲でスポーツができることを目指すべきだろう。高松市は、市民の健康づくりのためのスポーツ振興を、特色としていくべきだ。

会議経過および会議結果

国体等の競技スポーツについては、県や県体育協会などが力を入れているので、高松市としては、市民の健康づくりに主眼を置いたものを考えなければならない。各コミュニティ協議会と連携して、中高年の健康づくりに積極的に取り組んでいかなければならない。また、財団法人スポーツ振興事業団をもっと活用してはどうか。金が無くてもできるスポーツということ、知恵を絞って考えないといけない。

(事務局)

今回、成人の週1回以上のスポーツ割合を上げることを基本目標として、スポーツの定義をつくった。目標達成のためには、競技スポーツだけでなく、散歩・ジョギングなども「スポーツ」なんだということ、市民に広めていかなければならない。

今回のアンケート結果のうち、スポーツをしている場所を聞いたところ、道路の割合が高く、(スポーツ施設ではないところで)ジョギング・ウォーキングをしている人が多いということだろう。

体育指導委員・地区体育協会など、地域に対する情報発信をしなければならない。

(委員)

高齢者の中には、舗装された道路をウォーキングして膝を痛める人も多いと聞くので、高松市ではバイコロジー運動を広めたらどうか。自転車で、栗林公園など市内の名所に行くことを広げてみるのがいいだろう。もっと高齢者の健康づくりに努めて、医療費の削減に結びつくようにしなければならない。

(委員)

現在のスポーツリーダーバンク制度には、どのような問題点があるのか、それをまず考えないといけない。また、体育指導委員がニュースポーツに取り組めば、リーダーバンクの利用者が増えるのではないか。

リーダーバンクの認知度をもっと上げる必要があるのではないか。

(事務局)

リーダーバンクの近年の利用件数は少ないが、リーダーバンク登録者の数自体は、減少していない。

市によく問い合わせがあるのは、「こんな競技をしたいが、入れそうなチームが近所にあるか」といった類のもので、その対応としてはその競技の協会を紹介しているのが現状である。「自分たちでチームをつくったので、新たに指導者を紹介してほしい」という問い合わせはほとんどない。

市は、競技団体向けには、競技団体の指導者を指導できるような高度な知識を持ったスポーツリーダーを把握し、派遣していきたいと考えている。また、地域向けには、地域のコミュニティセンターへ高齢者向けの講座ができるということを知り、リーダーバンクの利用を増やしていきたい。

(委員)

市民スポーツカレッジは、平成8年度には体育指導委員以外で50名近く受講修了者がいたが、それ以降は、体育指導委員以外の受講修了者はいないと思う。参加者を高松市民に限定せず、近隣市町の住民も受け入れてもいいのではないか。

当初の目的は、次のリーダーをつくり地域を活性化することだったと思うので、よりそれに近づけるような内容にしてもらいたい。

(事務局)

市民スポーツカレッジの現状としては、体育指導委員がほとんどで一般市民が少ない。リーダーバンクとも一体として見直しをしたいと考えている。体育指導委員の研修としてではなく、体育指導委員は、

会議経過および会議結果

体育指導委員を対象とした資質向上を図る。

(委員)

地区によっては、高齢者がスポーツをしたいと思っても、コミュニティセンターや学校が遠くて行けない人も多いので、自治会単位にもスポーツ情報が伝わるようにしてほしい。そうすることで一人でも多く参加できるのではないか。

(事務局)

コミュニティセンターや自治会には、これまではあまりスポーツ情報を提供してきていない。今後は、体育指導委員や地区体協を通じて伝えていくつもりである。

(委員)

お金をかけずにできるプログラムを新しく開発していかなければならない。幅広い市民が参加できるプログラムの開発や提供をしていくことと、様々なところとの連携が大切になってくる。また PR 方法などを新しく考えていき、戦略的に PR するべきである。

リーダーバンクも登録者がどういう方面で活動できるかなど、ターゲットをはっきりする必要がある。利用した場合に、助成が受けられることももっと PR すれば、総合型スポーツクラブなどから引き合いがあるのではないか。市民スポーツカレッジも同様で、ターゲットを絞り、今後どういう方向にしていくのか明確にしなければならない。

また、地域のスポーツ活動に集まってくる高齢者は、全体の1割くらいだと思う。高齢者の一人暮らしなどで、外に出ない人とどう関わっていくかが難しく、なかなか一朝一夕にはいかない。老人会など、地域と協働しながら活動していくようにするのがよいのではないか。既存団体についても、今までにないような団体と連携して新しい活動をしていかなければ、参加者数も増加しないだろう。

(委員)

市出身の人で世界チャンピオンの人の講演会をしてみてもどうか。やり方としては、財政も厳しい時代なので、新たに市が予算を組んで実施するのではなく、例えば事業団の自動販売機収入を使うなど、発想の転換をしていかなければならない。市内・県内出身等の有名アスリートの講演会などをすることで、普段スポーツをあまりしない市民に対しても、スポーツに関心を持たせるようにすべきである。

(委員)

県も総合型地域スポーツクラブでも toto を申請するなどスポーツに関する予算があらゆるところで削減されている。これからはますますスポーツにお金をかけようとはならないであろう。その中で市民スポーツ、健康づくりを大切にし、スポーツの参加率・実施率・知名度をあげていかなければならない。市が小学校開放の受益者負担を導入していくことを検討していくことは当たり前の時代である。今後は、質の高いプログラム、魅力ある指導者が欠かせない。

(委員)

軽スポーツを指導できる指導者をどうしようにつくっていくか。プログラムを作るより、指導者を探すことが難しい。違うことをしようとすると特に難しく、特に軽スポーツなど競技スポーツでない指導者をどう発掘・育成していくか。市民スポーツカレッジの内容等具体的なものがみえてこない。指導者の資質向上を掲げると、競技団体からの反発があるのではないか。

また、小学校開放の受益者負担を導入することは、市民のスポーツ参加者を増やすという目標と矛盾するのではないか。

会議経過および会議結果

(委員)

リーダーバンクについては、メールで情報を流して、本当にやりたい人を募る必要があるのではないか。また、リーダーバンク指導者に、講習会の情報など役立つ情報を提供してみてはどうか。

(事務局)

リーダーバンクの見直しに関しては、内容がまだ固まっていない。今後は、各種関係団体の意見を聴きながら、新たな制度をつくる。

市が直接指導者を育成することは不可能なので、指導者育成は団体にお任せして、市としては、市内にどのような指導者がいるかといった情報の把握をしていく。

電気料金や管理経費など小学校の受益者負担を考えなければならないのではないか。学校開放を知っている人は、アンケート結果を見ると半分以下である。他の有料施設の利用者とのバランスも考えると、現在の無料という小学校開放の仕組みについて検討すべきであると考えている。

(委員)

新しくスポーツをするためには魅力的なプログラムが必要である。新たにスポーツ活動を増やしていくためには、夢中になってその競技を普及しようと活動する人や、指導者を広げていく活動をサポートすることが必要ではないか。ニュースポーツの指導者達は皆、自費で地道に講習会等に参加している。

(委員)

コミュニティ協議会とタイアップして高齢者、子どもを地域で育てるようなプログラム作成をするべきである。

学校開放は、地区体協など限られた人が使っているので受益者負担をしていかなければいけない。

(委員)

小学校の開放にかかる、必要経費は使う側からとるべきだ。無料のスポーツ指導は、よくないと思う。

(委員)

市のすべての小・中学校が同じスタンスで受益者負担を求めていかなければならない。小学校の受益者負担の導入を進めると同時に、すべての中学校夜間開放を進めることで公平性が保てるのではないか。統廃合小学校のあり方を含めて、全市的統一的なあり方を考えて欲しい。

(委員)

アンケート結果より、スポーツを行った人の理由で忙しかったという答えがある。車で通勤、通学をしている人が、徒歩や自転車に変えることは、スポーツに含んでもいいのではないか。

(委員)

民生委員と体育指導委員が、地域の情報交流をしてみるようにしてはどうか。

(委員)

体育指導委員の講習会などに民生委員が来るなどして、民生委員とコミュニケーションを取る機会を作ってみてはどうか。

(委員)

市報のスポーツの欄に具体的にやっていることを載せてみてはどうか。

今のトップスポーツチームのあり方は、底辺から支えられていない。

総合型地域スポーツクラブは、小学校単位ではなく中学校単位で行い、各小学校区で特色あるものにといろいろと取り組んで、その中から

会議経過および会議結果

地域でのトップをつくるようなことを目指さないといけない。そうすると、地域のスポーツクラブが盛り上がっていくのではないかと。

指導者の問題については、一元的に管理できていないことに原因があると思う。昨今の経済状態では、今までのように行政主導で行うことは難しく、我々がしなくてはならない。そうするためにも、市にある様々な団体を一元的に把握することが必要となってくる。

(委員)

スポーツ振興を行政だけで考えることは、難しい。

市のスポーツ振興は、地域スポーツは、地域で盛んなスポーツを尊重していき、市が支えるトップスポーツチームもそれに見合うだけのチームであってほしい。今の地域密着型トップスポーツチームは、どれだけ地域に密着しているのか。種目によっては、地域に全く根付いていないものもあり、市民が沸いているというものではない。そういった地域密着型トップスポーツチームより、高松市出身で頑張っている選手への支援をするという方法もあるのではないかと。

市が主催しているイベントで行き詰っているものは、事業仕分けをしていくべきだ。費用対効果をもっと考えていき、効果が上がっているものにお金をつけるべきだ。

市が主催で事業をするのではなく、情報の収集と発信を中心に行うべきだ。

体育館の管理者自体が、地域にスポーツ指導やスポーツ教室に行けるようになることがよいのではないかと。今の状態では、スポーツを広めようとする人が少ないように思える。

市は、県の県庁所在地なのだから今後は、市単独の事業実施にとらわれるのではなく、県との連携を考えていくべきである。

(委員)

地域密着型トップスポーツチームに関しては、委員さん達も厳しい意見を持っているようだ。香川県出身選手が活躍する場でもないし、市民と親しむ場でもない。心から市民が応援できるように、交流も含め、あり方について、今後も支援していくのであれば、高松市民にとって良い形を模索しなくてはならないのでは。

また、事業については、今まで行っているからといって続けるのではなく、事業内容を見直していく必要があるのではないかと。